

LFP推進事業における中央事務局の役割

—中央LFPバックオフィサー/株式会社アール・ピー・アイ・毛利美那子—

令和3（2021）年度からスタートした「地域食農連携プロジェクト（LFP）推進事業」は年度末に差し掛かり、参加地域ではクラウドファンディングなどを活用した新商品のテストマーケティング・検証を通じて、磨き上げの段階に入っている。筆者は中央LFP事務局のバックオフィサーとして、担当する地域の取り組みの支援や事業全体の事務的サポートを担っている。

これまで当連載で紹介されている通り、LFPは、地域プラットフォームへ多様なプレイヤーの参画を促すことで、イノベーションを誘発し、新しい価値を有したローカルフードビジネスを創出することを目指している。中央LFP事務局は、さまざまな専門家・実務経験者の参画を得て幅広い視野の助言を得ることで、地域支援の充実を図っている。本稿では、中央LFP事務局の各地域に対して果たす役割について考えてみたい。



毛利 美那子（もうり みなこ）

2005年に株式会社 アール・ピー・アイに入社。2021年にマネジャーに就任し、現在に至る。

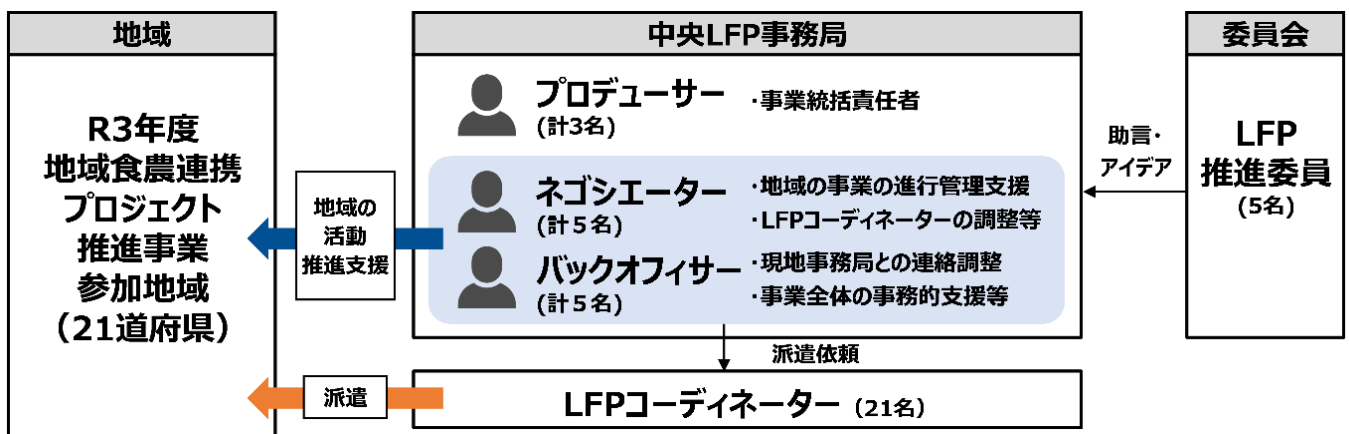
◇中央LFP事務局の地域支援体制

中央LFP事務局では、ローカルフードビジネスの創出に向けたプロジェクトから派生する効果を地域に落とし込むためのロードマップをつくり、その考えを地域内で共有していけるよう、思考～組成～マッチング～共有のそれぞれのフェーズで、各地域でのLFP推進に伴走支援を行っている。

支援体制として中央LFP事務局には、ネゴシエーターとバックオフィサーを5人ずつ配置している。各地域ごとに担当のネゴシエーターとバックオフィサー各1人をペアで割り当て、密にコミュニケーションを図っている。

ネゴシエーターは、各地域の企画の支援者として、専門家・実務経験者のLFPコーディネーターと共にプロジェクト全体の企画・進行に伴走支援し、地域事務局との綿密なコミュニケーションを通じて課題解決をサポートしている。バックオフィサーは、地域事務局と連絡を取りながら、地域の研修会や戦略会議、取り組みに対し助言を行うため、LFPコーディネーターの派遣調整などを担当。LFP推進委員会やLFPコーディネーター意見交換会といった中央LFP事務局が実施する会議をセッティングするなど、LFP推進委員とLFPコーディネーター、ネゴシエーターの効果的な支援をサポートしている。

中央LFP事務局の地域支援体制



◇各地域の課題や支援内容の共有

参加地域からは、同じ業種にとどまらず異業種の方々も交え、さまざまな視点で議論を重ねる場を設けることで、新たな気付きや価値創出に向けた糸口が見えてきたとの声が聞かれる。一方で、多様な事業者が参画するが故にプロジェクトに対する考え方も異なり、戦略の取りまとめが一筋縄ではいかない場面も見られる。

各地域とも、L F Pの特徴である社会的課題の解決と経済的利益の両立、イノベーションの創発、イノベーションを備えたビジネスモデルの構築といった難易度の高いミッションに取り組んでいる。それぞれの地域に適したL F Pコーディネーターを派遣し、伴走支援していくことが、中央L F P事務局の役割と考える。

L F Pは、これまでなかった新たな事業で先例がないため、同じようにプロジェクトにまい進している他地域の取り組みが、一番のモデルになる。中央L F P事務局では、各地域の進捗（しんちよく）や課題について局内で頻りに打ち合わせを行い、共有を図っている。各地域の検討手法やL F Pコーディネーターから得たアイデアについて、同様の課題を抱える他の地域へ展開するなど、地域間の支援内容の共有・充実化も図っている。

◇専門家・実務経験者の知見を伝達

中央L F P事務局は、地方創生やフードバリューチェーン全般の知識やアイデア、実績、ネットワークを有するL F Pコーディネーター、L F P推進委員とも連携して、事業を進めている。当連載に寄稿された大谷敏郎委員、齋藤隆太委員ら5人で構成するL F P推進委員会では、先行する地域数件を対象に、幅広い視野と知見を基に助言やアイデアをいただく場を設けている。その結果はネゴシエーター、バックオフィサーを通じて、地域の担当者に伝えている。

昨年10月には中間検討会と位置付け、L F P推進委の会合をオンラインでリアル配信することで、視野の広げ方などに関するL F P推進委員のアイデアについて地域の担当者が直接視聴する機会を設けた。会合の第2部では、二つのブースに分かれて、L F Pコーディネーター、ネゴシエーター、道府県および地域事務局の担当者による各地域の推進経過、今後の目標や解決すべき社会課題の設定などについて自由に意見を交わした。参加した地域の担当者からは、他地域のプロジェクトの推進状況を知ることができて良かった、さまざまな業種の人々の参画や社会的課題の設定について参考になった、などのコメントが寄せられた。中央L F P事務局ではこのように、多様な人々によるディスカッションの機会を多く設けるとともに、そこから生まれたアイデアを地域に丁寧に伝達することで、取り組みの進展に向けたサポートを行っている。

さらに、L F Pコーディネーター同士が集まり、各地域の支援内容や検討手法、今後の支援に向けた課題などについて情報共有・意見交換を行う場も設け、地域支援に対する目線合わせを行っている。

◇中央LFP事務局が担うべきこと

L F Pは先例のない新規事業であるため、21年度に取り組んでいる21地域の担当者は不安を感じる面も多々あると推察する。各地の研修会や戦略会議では、地域の担当者から、他地域の取り組み事例の紹介を要望されることも多い。ラストスパートに向け悩んでいる地域の担当者はぜひ、中央L F P事務局に相談していただきたい。オンライン化が進み、距離を気にせずに情報共有・意見交換が可能な環境となった今だからこそ、中央L F P事務局では、さまざまな情報伝達ツールを活用し、地域のサポートを行っていききたい。また、各地域の取り組みについては、中央L F P事務局のポータルサイトでも随時、紹介するようにしている。

年度末まで残り1カ月弱。地域の担当者は、21年度の成果の取りまとめに向けて調整・事務手続きなどで多忙な日々を過ごしていると思う。中央L F P事務局としても、持続可能なローカルフードビジネスの創出、次年度へのさらなる取り組みの進展に向け、共に駆け抜ける伴走者として支援をしていきたい。